

## 0.セットアップ手順について

### セットアップ手順の概要

ソース管理ツール SMSYS(以下「当アプリ」)はMAGIC開発環境のソースファイルの管理を行います。そのため開発中のプロジェクトにアクセスできる環境の設定が前提になります。

例えば、コンポーネント(.NETタイプではなくMAGICタイプ)を使用したプロジェクトの場合は、プロジェクトで利用している全てのコンポーネントのソース(キャビネット:\*.\*.ecfではなく\*.edpとその管理下のソース)にアクセスできなければなりません。

通常それらは起動時の①MAGIC.INI(/INIオプション)、②コマンドファイル(コマンドパラメータ中@ファイル)、③コマンドラインオプション(任意のオプション名)等で指定しますが、後に説明するインストールプログラムはそれらの環境値を取得して動作環境を整えます。

セットアップの手順、実行までの流れをまとめると下記のようになります。

- ① 目的となるプロジェクトが正常に動作する開発環境を準備
- ② ①の環境で開発版(Magic xpa Enterprise Studio)を起動
- ③ 設定用プロジェクト「SM.SETUP」を開き、インストール用プログラムを実行
- ④ 開発版から起動する場合は、③で書き加えられたユーザー定義開発メニューを使用して目的のプロジェクトから実行
- ⑤ ③でデスクトップにショートカットを作成した場合はそのショートカットを使用し単独のアプリケーションとして実行

### 2種類の起動モードと起動方法

当アプリには「通常」「PROJ指定」の2種類の起動モードがあります。

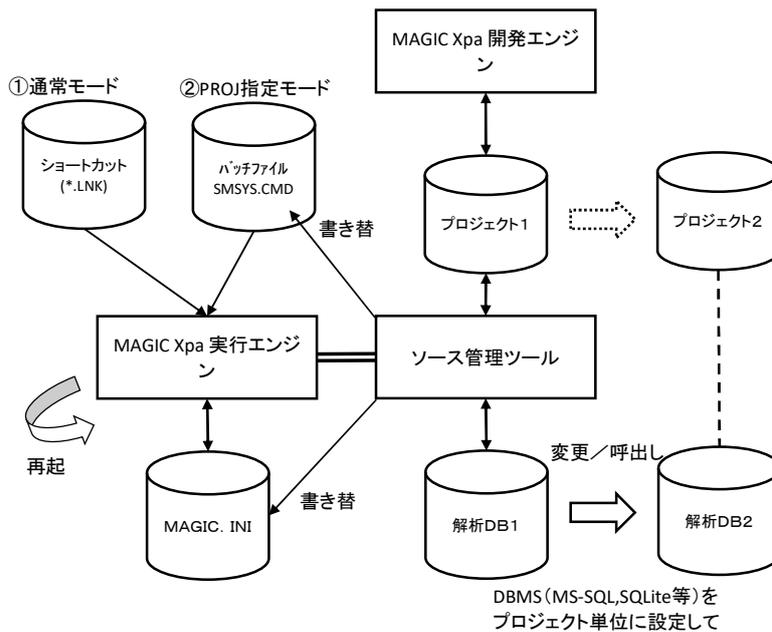
「PROJ指定」モードは起動時にプロジェクトが指定されたモードで、解析データを保存するデータベース等の環境条件を限定しているため、起動後にはプロジェクトの変更ができません。

これに対して、「通常」モードは起動した後で、別のプロジェクトに変更できますが、解析データ保存条件が異なる場合は自ら再起動してその環境を切り替える処理を行うモードです。

開発版で開いている最中のプロジェクトを開く場合は「PROJ指定」モード、デスクトップに作成したショートカット等で起動する場合は「通常」モードになります。

#### 2種類の起動モードの違い

	起動後のプロジェクトの変更	解析DBの異なるプロジェクトを開く時の動作	起動場所	同一プロジェクトの起動	モードの判定方法
通常モード	○	確認ダイアログ表示後、再起動	ショートカット等	×	「/PROJ」の指定なし
PROJ指定モード	×	起動時にセットし新インスタンスで起動(バッチ「SMSYS.CMD」を使用)	ユーザー定義開発メニューや起動済みのインスタンス	○	「/PROJ」の指定あり



参照しようとするプロジェクトを、設定した解析DBの異なるプロジェクトに変更する場合、MAGIC.INIの[MAGIC\_DATABASES]セクションの定義等を変更する必要がありますが、当アプリは自動的にそれを行うための仕組みを用意しています。

①「通常」モードではMAGIC.INIを変更した後、アプリ自身を再起動します。

②「PROJ指定」モードでは、新しいインスタンスを起動します。その際の受け



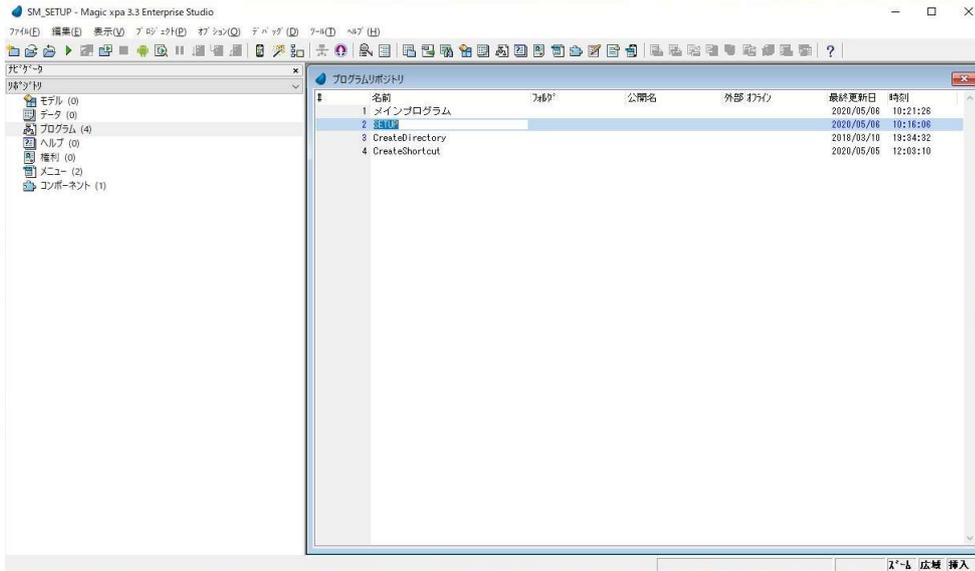
## 1.アーカイブの解凍

ファイル「SMSYS\_X###.zip」を任意のフォルダに展開します。展開後のフォルダイメージは下記の通りです。

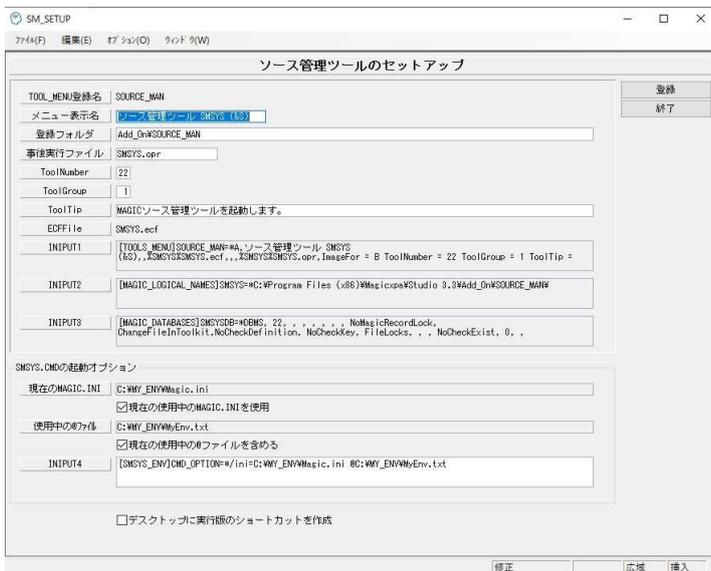
SMSYS_X###	
├ README.txt	「はじめに読む」テキストファイル
├ SMSYS - セットアップ手順.pdf	当ドキュメント
├ DEVELOP	開発用資料
├ SM.SETUP	インストール用プロジェクト「SM.SETUP」フォルダ
├ └ SM.SETUP.edp	「SM.SETUP」プロジェクトファイル
├ └ Source	「SM.SETUP」ソースフォルダ
├ └ Exports	「SM.SETUP」Exportsフォルダ(空)
├ └ Data	SMSYSインストーラデータ
├ └ └ DLL	SMSYSインストーラデータ(DLLファイル)
├ └ UPDATE_FILES	前バージョンからの差分のみ格納

## 2.開発版でのインストール

- ① Magic xpa 3.x EnterpriseStudio (Version は3.2以降) でプロジェクト「SM\_SETUP」を開きます。



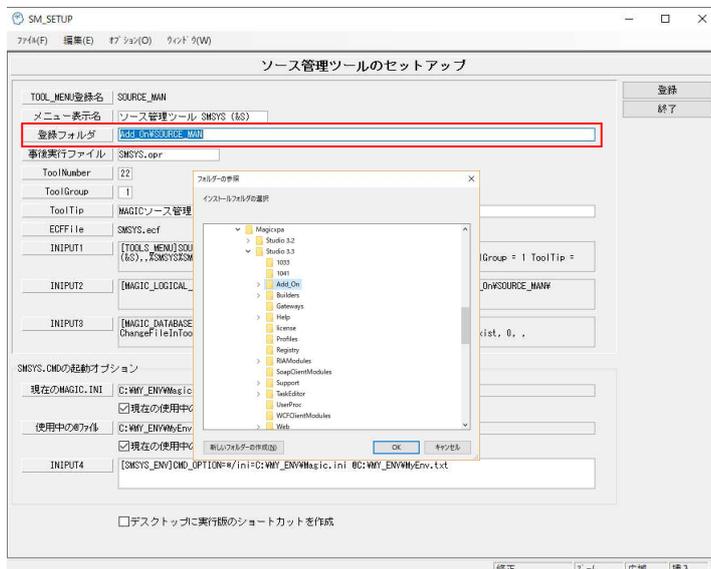
- ② プログラムリポジトリの「SETUP」を実行します。



「メニュー表示名」を変更することが可能です。

「登録フォルダ」を選択します。

初期値はシステムフォルダの下の「Add\_OnSOURCE\_MAN」ですが、「F5:ズーム」で任意のフォルダを選択することが可能です。



## SMSYS.COMDの起動オプション



現在起動中のコマンドラインから読み取った MAGIC.INI 及び 使用中の@ファイル(コマンドファイル)を取得して表示します。当アプリの起動に使う場合は「現在の使用中のMAGIC.INIを使用」「現在の使用中の@ファイルを含める」をそれぞれチェックします。それ以外のオプションの指定が必要な場合は直接「INPUT4」を編集します。

起動用ショートカットを作成する場合は、「デスクトップに実行版のショートカットを作成」にチェックします。

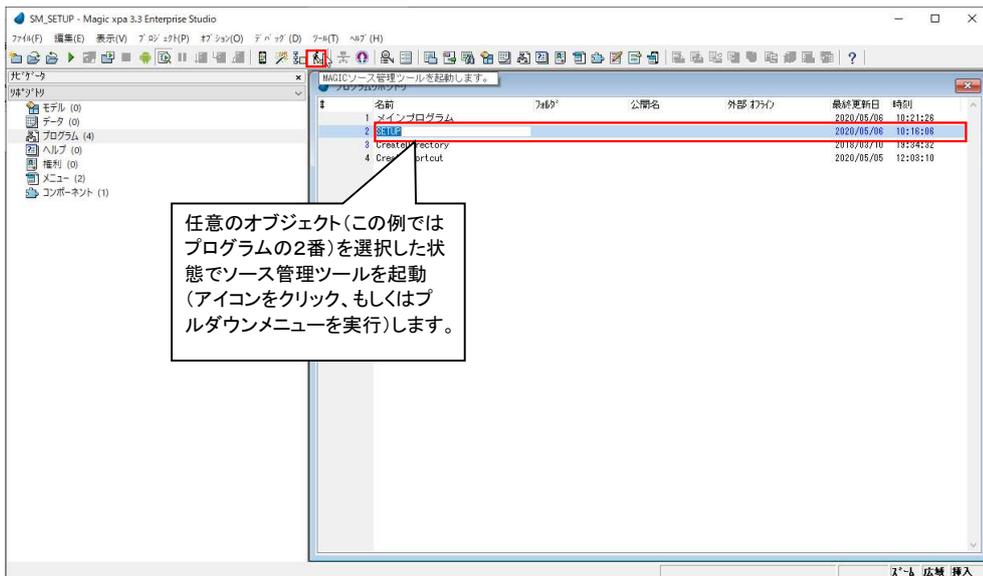
### ③ 「登録」ボタンを押してインストールを実行します。

インストールに成功すると下記のダイアログが表示されます。指示に従ってMagic xpaを再起動してください。

### ④ 動作を確認(ユーザ定義開発メニュー)

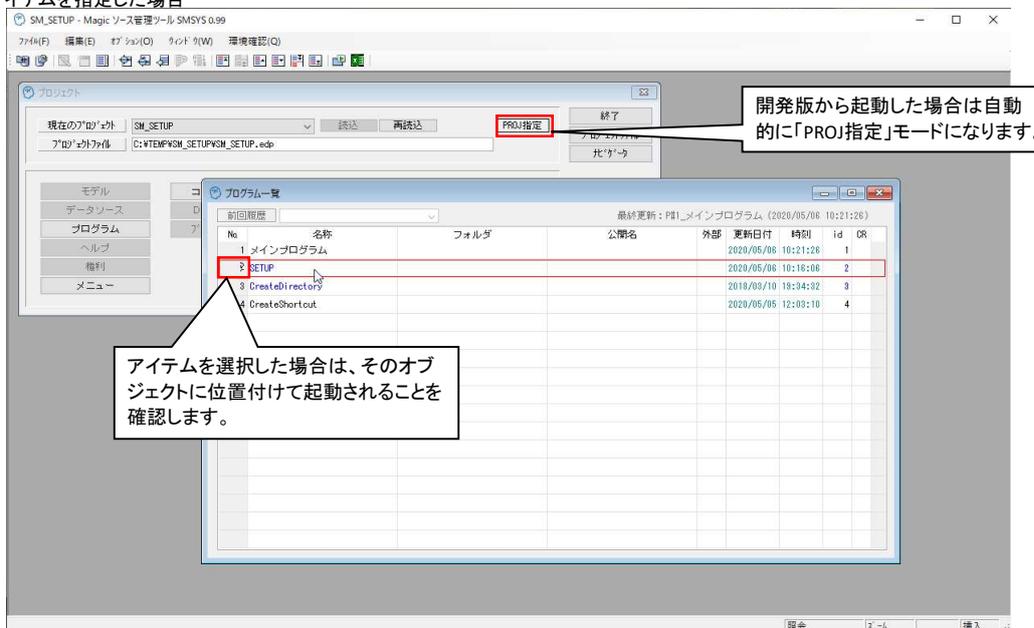
1) 再起動を行った後、任意のプロジェクトを開きます。

ロ) 任意のオブジェクトを選択し、ソース管理ツールを起動します。

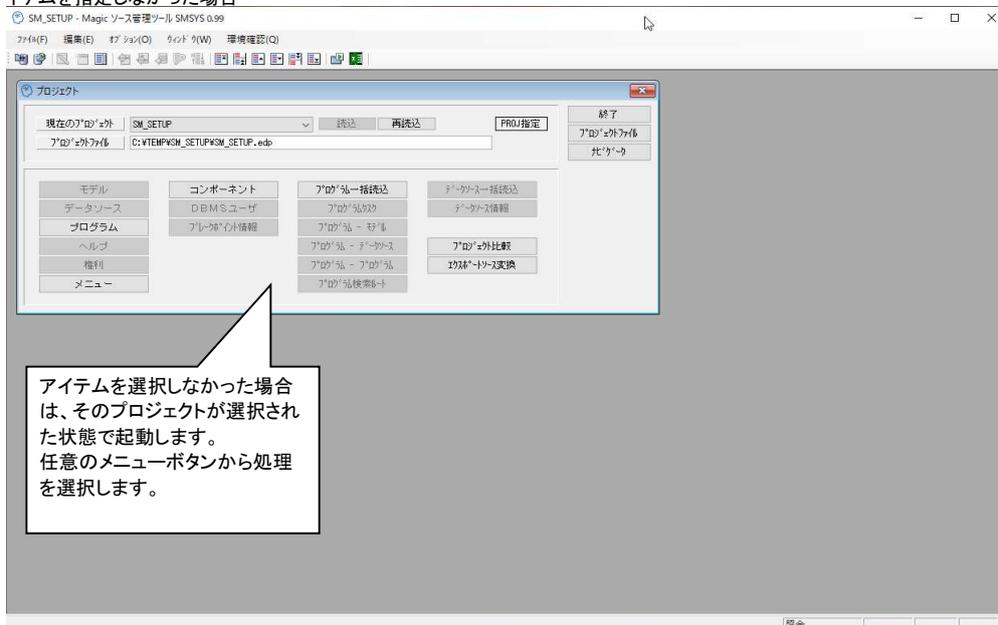


ハ) ソース管理ツールが起動されることを確認します。

#### アイテムを指定した場合



#### アイテムを指定しなかった場合





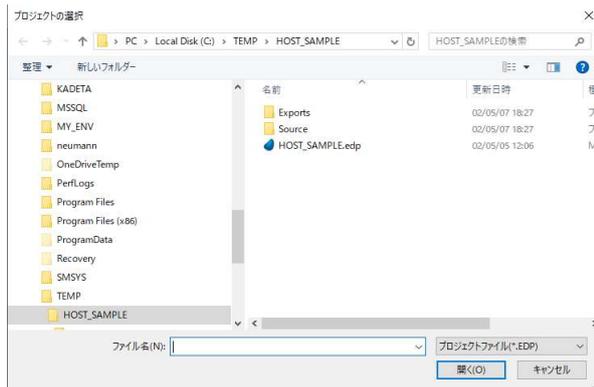
## ⑥ 基本操作

### イ) プロジェクトの追加

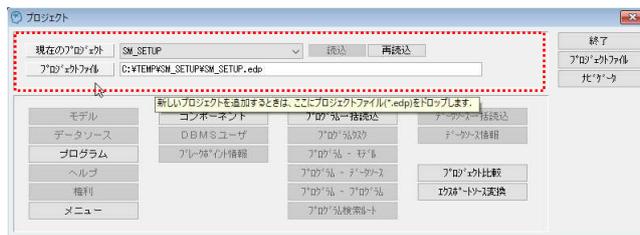
コンテキストメニューから「プロジェクトの追加」を選択します。



「プロジェクトの追加」ダイアログが表示されるので、プロジェクトファイル(\*.edp)を選択します。



※ プロジェクトファイルを下図点線領域にドロップすることにより追加することも可能です。



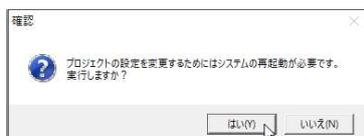
※ その他、開発版で開いたプロジェクトの一覧から選択する方法もあります。(「環境設定」→「プロジェクト一覧」→「最近のプロジェクト読込」)

### ロ) プロジェクトの変更

「現在のプロジェクト」を変更することにより、プロジェクトの変更が可能です。

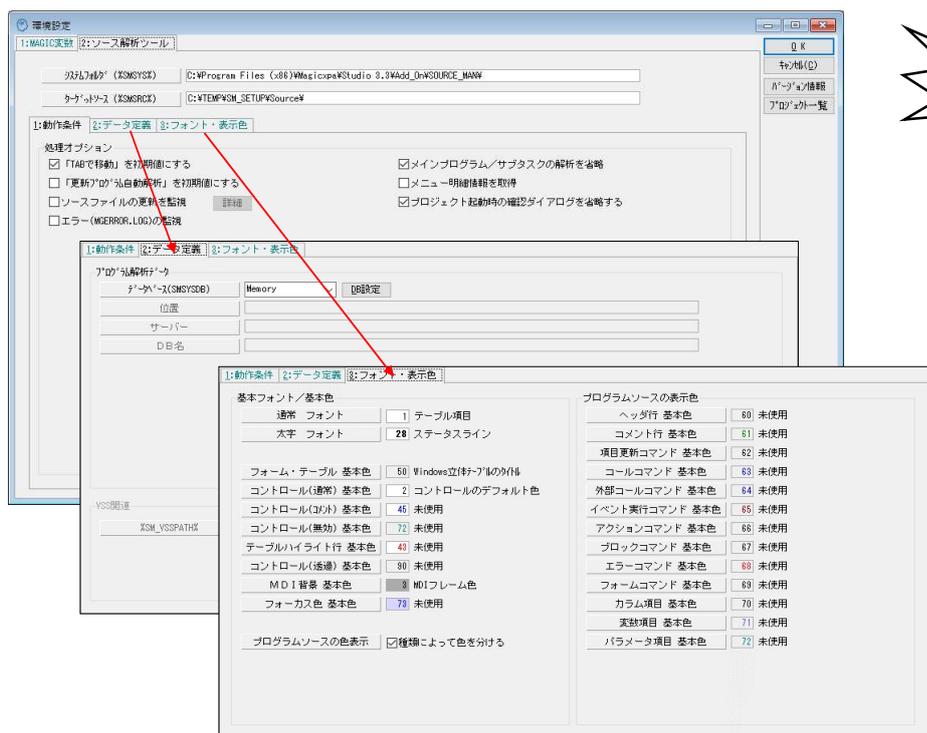


※ このコンボボックスでプロジェクトを変更できるのは、プログラム解析データにDBMSを設定していない場合です。変更前のプロジェクト、変更後のプロジェクトの何れかにプログラム解析データが設定されている場合は、下記の確認メッセージが表示します。



## ハ) 環境設定

プルダウンメニューから「環境設定(Q)」を選択します。  
 動作条件の設定(処理オプション)、データ定義(プログラム解析データの設定)、フォントや表示色の設定等、当アプリの環境を設定します。  
 また、「プロジェクト一覧」ボタンにより、登録済みプロジェクトを確認したり、編集することが可能です。

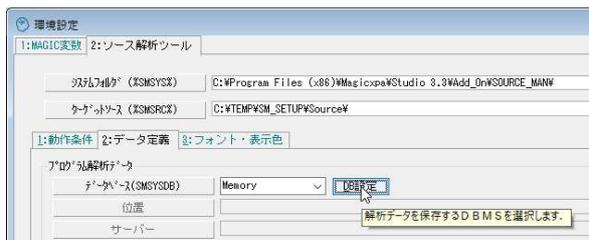


## ニ) プログラム解析データのDBMS利用

プログラムの一覧からF5ズームにより、ソース内容を表示しますが、そこで取得したデータをプログラム解析データと呼ぶことにします。  
 ゲートウェイによる違いは下記の通りです。

No.	選択可能なDBMS	保存／読込	SQLメニュー利用	DB共有	特記事項 用途等
1	Memory	メニューによる手動操作 (「データの保存」「保存データの読込」)	×	×	規定値 大規模なプロジェクトは制限を受ける?
2	Btrieve	自動	×	○	SQL用の処理がないため若干高速?
3	Microsoft SQL Server	自動	○	○	推奨
4	SQLite	自動	○	×	推奨 可搬性良

環境を設定プログラムのデータ定義タブを開き、「DB設定」ボタンを押します。



データベースを選択します。



選択したデータベース別に位置、データベースサーバー、DB名等を設定します。

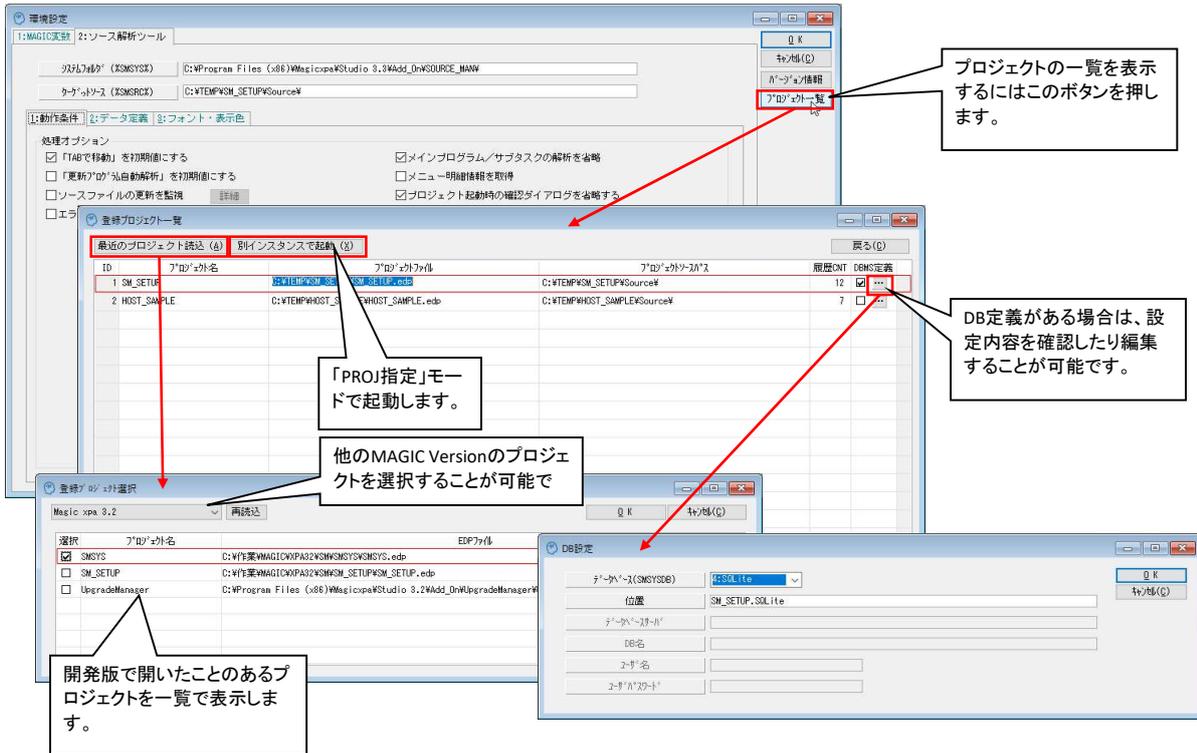


ゲートウェイ別の設定項目は下記の通りです。

No.	DBMS	位置	データベースサーバ	DB名	ユーザー名/ユーザーパスワード
2	Btrieve	保存先パス名	—	—	—
3	Microsoft SQL Server	—	接続先サーバー名	データベース名	SQLサーバ認証時のユーザー名とパスワード
4	SQLite	DBファイル名	—	—	—

ホ) プロジェクトの一覧

プルダウンメニューから「環境設定」を開きます。  
 「プロジェクト一覧」ボタンを押すとプロジェクトの一覧を表示します。  
 不要なレコードは削除(修正モード変更後「F3」キー)できます。  
 パス名等が変わったときは、このテーブルを直接変更することが可能です。  
 「最近のプロジェクト読込」ボタンを押すと、開発版の履歴から未登録のプロジェクトを追加することも可能です。



⑥ トラブル時の対処

環境の変更等により正しく動作しなくなった場合は、下記のような対処を行ってみてください。

a) インストール用プロジェクト「SM\_SETUP」を再実行する（起動できなくなった場合など）

The screenshot shows the 'ソース管理ツールのセットアップ' (Setup of Source Management Tools) window. Key elements and callouts include:

- 登録 (Registration):** A button labeled '登録' with a callout: 「登録」を実行することにより再インストールを行います。
- Configuration Fields:** Fields for 'メニュー表示名' (Menu Display Name), '登録フォルダ' (Registration Folder), and '事後実行ファイル' (Post-execution File) are highlighted with a red box. A callout explains: 既にMAGIC.INIの設定値 ([TOOLS\_MENU]SOURCE\_MAN)がある場合は、その内容を読み込み表示するようになっています。登録フォルダの設定により、インストール先を変更することが可能です。
- SMSYS\_CMDの起動オプション (SMSYS\_CMD Startup Options):** A section with checkboxes and input fields. A callout states: 起動中のコマンドラインを読み取って、その内容を読み込み表示するようになっています。使用するMAGIC.INI等を変更することが可能です。
- ショートカット作成 (Shortcut Creation):** A checkbox at the bottom. A callout notes: 入力した「メニュー表示名」からファイル名を決定しています。同名のショートカットファイルを更新します。

※ MAGIC.INI の[MAGIC\_DATABASES]SMDBSYSの値を書き換えるため、再インストールを行った後は下記のメッセージが表示されることがあります。指示に従い、環境をセットし再起動してください。

The dialog box asks: プロジェクトの動作環境が設定と異なっています。環境をセットし、再起動しても良いですか？ (The project's operating environment differs from the settings. Is it okay to set the environment and restart?).

- はい(Y) (Yes):** 「はい」で環境値を更新後、再起動します。(推奨) 「いいえ」で環境値を変えず、そのまま起動します。 → 起動後、b)の方法で一旦メモリゲートウェイに設定値を戻すことによりこの警告を解消させることが可能です。「キャンセル」で起動を中断します。
- いいえ(N) (No):** (Implied: Do not restart)
- キャンセル (Cancel):** (Implied: Cancel restart)



b) プロジェクト管理ファイルの編集を行う（特定のプロジェクトが起動できない場合など）

登録プロジェクト一覧を修正モード（「オプション(O)」→「修正(M)」）にし、該当プロジェクトの設定を編集します。

The screenshot shows a table of registered projects. A callout points to the '修正モード' (Correction Mode) button and explains: 修正モードにして「DBMS定義」のチェックを外すことにより、規定値のMemory G/W扱いとなります。(MAGICの「データベース」設定にプロジェクトの設定を合わせるようになります)

ID	プロジェクト名	プロジェクトファイル	プロジェクトフォルダ	DBMS定義
1	SM_SETUP	C:\TEMP\SM_SETUP\SM_SETUP.edb	C:\TEMP\SM_SETUP\Source#	4
2	HST_SAMPLE	C:\TEMP\HST_SAMPLE\HST_SAMPLE.edb	C:\TEMP\HST_SAMPLE\Source#	